

令和4年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 定時制)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 基本的生活習慣の確立と基礎学力、技能の定着を図る 2 地域社会や家庭との連携を推進する 3 生徒一人ひとりの個性に応じた進路実現を目指す
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ・多様な生徒が在籍している。 授業に集中し学習に取り組ませる指導を行っている。 落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 【課題】 ・授業や部活動等、学校活動に自主的に取り組む態度を育成する必要がある。 ・多様な生徒に対応した教育課程の編成及び観点別学習評価を実践する必要がある。	・基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着及び指導力の向上と学習環境の整備 ・今年度年次進行で試行される新教育課程の実践及び観点別学習評価の実践と検討	①校内巡回、登下校の教職員当番表を作成し、教職員全員が共通理解し、落ち着いて学習活動に取り組めるようを整備する。 ②ICT 機器やアクティブラーニングを活用し、生徒の興味・関心を高める授業を実践する。 ③多文化共生推進員及び学習サポーターの効果的な活用で多様な生徒の支援を行い、教員に情報共有する。 ①新教育課程及び観点別学習評価の実践して研究する。	①学校生活・態度など学習規律の定着度合をアンケート、管理職面談等で確認する。 ②アンケート結果から学習意欲・理解度等が向上したか。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等と教職員が面談を行うなどして共通理解し、支援が図れたか。 ①今年度の成果と課題をまとめ、全教職員で共通理解できたか。					
2	【現状】 ・HP等を活用し情報発信を行い、学校評価懇話会において保護者・生徒との意見交換等を実施している。 ・外部の教育機関との連携を積極的に実施している。 【課題】 ・コロナ禍で実施可能な教育活動の充実を図り、多くの保護者や外部の方々に教育活動をご覧いただけるよう周知し理解を得る必要がある。	・HP等の情報発信 ・コロナ禍で実施可能な教育活動等の運営及び開かれた学校づくり	①新聞等を効果的に活用して外部発信する。 ②学校教育活動を工夫した内容でHPに掲載する。 ①学校評議員会や学校評価懇話会の意見を活用する。 ②SSW、SC、外部の専門機関との連携を図り、より積極的に活用する。 ③各教科委員会と共通理解の下教育活動を運営する。	①新聞等による外部発信の回数が増加したか。 ②アクセス数を増やすことができたか。 ①本年度のまとめをし、次年度に活用できたか。 ②外部の専門機関との連携回数、生徒・保護者の相談回数が増加したか。 ③コロナ禍で実施可能な教育活動が行えたか。					
3	【現状】 ・卒業後の進路を定められていない生徒が見受けられ、粘り強い指導が続けられている。 ・多様な個性を持つ生徒の支援を組織的に実施している。 【課題】 ・これまでの成果を踏まえ、各年次、各分掌、各委員会等で連携し、卒業後自立した社会人として活躍できるような生徒を支援・指導する。	・規律ある生活態度の育成とともに多様な生徒の状況の理解と支援 ・各組織間で連携した組織的な生徒の卒業後の自立支援指導方法の構築	①挨拶運動(登下校)を実施し、時間を守る等規律ある態度が取れるよう生徒の育成を目指し、教育活動を行う。 ②年次、生徒指導部、特別教育推進委員会を中心に、多様な生徒の情報共有、理解、支援を行う。 ①LHRや放課後等を利用して校内外の進路説明会を実践し、就職支援アドバイザーを活用した進路指導の実現を行う。	①出席率が向上したか。 規律ある授業が展開できたか。 遅刻者数が減少したか。 ②職員会議・打合せ等で教職員が情報共有して、理解・支援を図れたか。 ①就職未定者数の減少ができたか。アンケート結果から生徒の第一志望の進路実現ができたか。					